

学校関係者評価 報告書

対象期間: 2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日

学校法人: 早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目 次

1. 評価実施の概要	3
2. 評価結果	4
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	6
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	7
② 教育方法・評価等	8
③ 資格試験	9
④ 教職員	9
(4) 学修効果	11
(5) 学生支援	12
(6) 教育環境	13
(7) 学生の受入れ募集	14

（８）法令等の遵守	1 5
（９）社会貢献・地域貢献	1 6
5.総 評	1 7

2024 年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

(1) 評価目的

「早稲田大学芸術学校 2024 年度自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

(2) 評価実施者

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員一覧

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 前橋工科大学 神奈川大学工学研究所	名誉教授 客員教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店	稲芽会 副理事長	田中 茂	

(敬称略)

(3) 実施日時

2025 年 5 月 20 日 (火)

(4) 評価の方法

本校自己評価委員会において承認された「2024 年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに 1 (不適切) 2 (やや不適切) 3 (ほぼ適切) 4 (適切) の評価判定を受けた。各委員の評価の※平均値 (小数点以下第二位を四捨五入) を最終評価とし、また記述意見 (「適切である」という記述を除く) がある場合は項目ごとに取りまとめた。(記述意見がない項目については項目見出しのみ記載)

※小項目の値は各委員の評価を平均化し、小数点以下第二位を四捨五入したもの

※中項目の値は四捨五入前の小項目の値を平均化した後、少数点以下第二位を四捨五入したもの

※中項目の値は「表示されている小項目」の平均値とは異なる場合がある。

2. 評価結果

1. 学校の教育理念 (AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：4.0

■委員からの評価・意見

- ・「AA Idea」による3つの説明は高い理念をわかりやすく説明できている。

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：4.0

■委員からの評価・意見

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：4.0

■委員からの評価・意見

- ・ネット媒体を活用して更なる学生募集につながる広報活動に注力していただきたい。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成像

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.7
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成像は定められているか」

●「学校における職業教育の特色は何か」

- ・いろいろなバックボーンを持った主体的な学生が、2-3年夜間という限られた時間に集中して学ぶことと、それに答えられる講師陣だと認識している。
- ・分野横断型のカリキュラムは評価できる。

●「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」

- ・「芸術学校の将来構想」で描けていると認識している。
- ・優秀な学生の学修意欲に応えるべく大学院創造理工学研究科とのさらなる連携強化をお願いしたい。

●「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」

- ・4つあるSNSアカウントをうまく使い分け周知してはどうか。また先生⇄学校で可能な内容についてはシェアするなど工夫もされてみてはどうか。
- ・見せ方、露出の仕方は継続的な課題と考える。ぜひ効果的にアピールしてほしい。

●「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」

- ・業界ニーズを把握しつつも、主体的な教育方針を続けていただければよい。

(2) 学校運営

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント：３．９

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 ４、ほぼ適切 ３、 やや不適切 ２、不適切 １
目的等に沿った運営方針が策定されているか	４．０
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	４．０
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	４．０
人事、給与に関する規程等は整備されているか	４．０
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	４．０
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	４．０
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	３．７
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	３．７

■委員からの評価・意見

- 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」
- 「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」
- 「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」
- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」
- 「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」
 - ・パンフレット電子版の公開は其中で検索もできて良い。可能なら抜粋版を作成しネット検索でヒットするよう工夫しではどうか。
- 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」
 - ・早稲田本体の取り組み・導入に依存するとは思いますが、積極的に取り入れ効率化を進めてほしい。

(3) 教育活動

① 目標の設定等

■ 評価結果：適切である。

■ この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■ 委員からの評価・意見

- 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」
- 「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」
 - ・ 夜間2時限という制約の中、可能な限りの対応をされている。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント：４．０

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 ４、ほぼ適切 ３、 やや不適切 ２、不適切 １
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４．０
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	４．０
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	４．０
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	４．０
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	４．０
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	４．０

■委員からの評価・意見

●「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」

- ・カリキュラム改編以降のマトリクスを用いたシステムが機能している。学生が目指すべき方向性が明確にされ、また教員が関わるべき位置づけが明らかになった優れたカリキュラムであると評価できる。

●「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」

- ・座学と校外見学等の経験型学習の両軸での教育実施を高く評価する。

●「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」

- ・建築セミナーでは関係者に解説を受けながら実際の建築を見学するなど、校外に出かけることも含めて良い活動ができています。

●「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」

- ・芸術展での展示を通じてプレゼンやレイアウト計画を行うなど、設計者として必要な知見を得られる機会になっている。

●「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」

●「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」

③資格試験

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント：３．７

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 ４、ほぼ適切 ３、 やや不適切 ２、不適切 １
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	３．７

■委員からの評価・意見

- ・通信教育など一級受験に特化した他の学校も増えているので、比較というわけではないが、入学希望者からの問い合わせや目的に対し、何らかの対応・回答できるように希望する。

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント：４．０

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 ４、ほぼ適切 ３、 やや不適切 ２、不適切 １
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	４．０
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	４．０
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	４．０
職員の能力開発のための研修等が行われているか	４．０

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」
 - ・実務を担われている方を中心とした教師陣から要件に合った教育・授業が行われている。
 - ・「Research and Result」にて質の高い研究成果が示されている。

●「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」

- ・実務を担っている方を中心として、業界の動向等と連携のとれた教員陣が授業を担当している。

●「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」

- ・実務を担っている方を中心として、先端的な知識・技能を持った教師陣が授業を担当している。

●「職員の能力開発のための研修等が行われているか」

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.3

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.0
資格取得率の向上が図られているか	3.3
退学率の低減が図られているか	3.3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

- ・学校の教育方針から就職率向上は主目的ではないと感じるが、学生の要望には対応できる体制であってほしい。また卒業時ではなく時間経過後の就職先把握も対応していただければよい。
- ・社会人学生が多く、就職率の数値はさほど問題ではないのではないか。
- ・社会人学生が多く就職率を評価対象とするのは適していないのではないか。
- ・いわゆる高校卒業後すぐに芸術学校に入学した学生の就職率やその層への支援について焦点を当ててみるとよいのではないか。

●「資格取得率の向上が図られているか」

- ・学校の教育方針から資格取得率向上は主目的ではないと感じるが、学生の要望には対応できる体制であってほしい。
- ・調査データが不明。

●「退学率の低減が図られているか」

- ・経済的な理由による退学を減らせるよう状況把握に努め、奨学金の積極的な説明や、一時的な休学も含め最後まで学べるようサポートをお願いしたい。
- ・休退学者への相談・アドバイス体制は整っているように思うが、毎年一定数いるため、より良い方策を模索して欲しい。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

- ・卒業後、5年・10年後の動向を把握できる仕組みが構築できると、学校の在り様や在校生への参考として役に立つのではないかな。
- ・学生がコンペに入賞した場合等について、芸術学校では学校独自の表彰は行っていないが、学生のモチベーションを上げるためにも、表彰を行うことについて検討した方が良いのではないかな。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
卒業生への支援体制はあるか	3.3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.7
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.7
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

- ・相談要望がある学生にはきめ細かく対応できている。

●「学生相談に関する体制は整備されているか」

●「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」

●「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」

●「卒業生への支援体制はあるか」

- ・デザイン系・アトリエ系への就職を希望する場合、卒業と同時に就職するケースに限らず、卒業した後、に作品のポートフォリオを用いて就職活動を行うことが多い。卒業後1年以内の卒業生の動向把握・支援

を取り組んでいただければよいのでは。

- 「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」
- 「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」
 - ・大学院との連携は特色の一つなので、積極的な取り組みと広報をしていただければよい。
- 「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」
 - ・学生やOB・OG向けに実作内覧会を開催し、実例による教育や相互批評ができるとよい。

(6) 教育環境

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.7
防災に対する体制は整備されているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」
 - ・学校の設備は整っているが、学生が作業するパソコンやソフトウェアを自前で用意できているかの確認は必要。
- 「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備」
 - ・JIAの研修制度は実務に触れられるよい機会なので、学生へ積極的に広報し、活用できればよい。
- 「防災に対する体制は整備されているか」

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
学生募集活動は、適正に行われているか	3.3
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」

- ・高等学校卒業を最終学歴とする学生は近年の入学動向から割合は少ないが、いろいろなバックボーンを持つ学生が集まるよう取り組んでいただければよい。
- ・この世代により響くのはSNSでの発信だと思われる。出前講義等も検討してもよいかもしれない。

●「学生募集活動は、適正に行われているか」

- ・たまにWEB上で芸術学校広告を見かける。ただアンケートからは「広告をみた」といった意見は少ないようなので、効果的な方法を模索していただければよい。
- ・芸術学校が受け入れる層は幅広いので、ターゲットを絞ることは難しいかもしれないが、効果的な説明、広報を行ってほしい。

●「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」

- ・4-(4)-④で回答したように、卒業後の状況把握できる仕組みを Forms 等活用し実施できればよい。

●「学生納付金は妥当なものとなっているか」

(8) 法令等の遵守

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント：４．０

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 ４、ほぼ適切 ３、 やや不適切 ２、不適切 １
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	４．０
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	４．０
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	４．０
自己評価結果を公開しているか	４．０

■委員からの評価・意見

- 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
- 「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
 - ・保護を前提に活用もできるような体制を整えていただければよい。
- 「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」
- 「自己評価結果を公開しているか」

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

- ・学生作品展は来訪者も多いようなので状況を把握し、今後の貢献方法に何らかのフィードバックができればなお良い。

●「地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか」

- ・大学と連携し何らかの地域貢献できるよう進めていただければよい。

◆ 総 評

- ・ 2018 年に新カリキュラムに移行し順調に進捗されていると認識しておりますが、実務領域では建築・建設の IT・DX 化が必須の状況になってきています。学校の教育方針・内容と建築領域だけにとどまらないデジタル化への動きを、今後どう関係づけていく（しないことも含め）かが求められていくと思っています。その中で「社会人教育」を中心としたこの学校が、早稲田だけでなく建築界・教育界で特徴ある存在として在り続けるようお願いしております。
- ・ 全体的に教育環境は十分に整っているように見受けられる。また建築科から建築都市設計科への編入者の割合から学修意欲のある学生が一定数いるのは評価できる。気になったのは「卒業後の進路」調査の未回答率が高い(43.9%)ことである。未提出者と進路未定者の合計は 57.5%となっている。学生の関心の希薄さなのか、回収方法に問題があるのか定かでないが方策を考える必要があるのではないかと。(資料 g)4-2「芸術学校を選択した理由」では芸術学校の特徴を理解した上で入学しているのが分かり、広報の成果だと評価できる。